



勸農
叢書

養蠶
絹篩

上



學 物 書 錄 物 書 物 書 物 書 論 治 書 防 說 圖 解 論 案 內 說 法 筭 法 刊 篇 要 論 畧 學

書肆 東京京橋區南傳馬町三丁目 有隣堂 穴山篤太郎

- 陸軍文庫太田雄寧 壹册 金拾八錢
- 全 貳册 金四拾錢
- 農務局西川勝藏 壹册 金五拾錢
- 今泉六郎 五册 金壹圓八拾錢
- 一柳直宰 全 金壹圓八拾錢
- 今泉六郎 全 金壹圓八拾錢
- 大澤弘毅 四册 金壹圓五拾貳錢
- 全 壹册 金貳拾五錢
- 勸農局錦織精之進 貳册 金貳圓貳拾五錢
- 志賀雷山 壹册 金六錢
- 柏原學而 三册 金五拾錢
- 全 壹册 金拾貳錢五厘
- 陸軍文庫 全 金三錢
- 全 貳册 金五拾四錢三厘
- 全 壹册 金拾四錢
- 全荒井義通 全 金四錢
- 全 拾五錢
- 牧野終太 全 金貳拾五錢
- 陸軍文庫 全 金拾錢
- 全 壹葉 金四錢
- 原八百太郎 全 金四拾五錢
- 津野慶太郎 全 近刻
- 陸軍文庫 壹册 金三拾壹錢三厘
- 全 貳册 金四拾四錢

收畜及獸醫書目錄

蒙	博物局	壹冊	金五拾錢
學	全	貳冊	無彩色 九拾五錢 而部彩色 壹圓 全編彩色 貳圓貳拾錢
圖	全	廿五葉	壹葉壹錢五厘ッ、
本	全	四箱壹組	上金三圓 並金壹圓五拾錢
圖錄動物部	全	初壹葉	金拾六錢
圖錄動物部	全	上壹冊	金貳拾五錢
書	勸業寮	壹冊	金七拾五錢
草	全	全	金五錢
說	杉山安親	三冊	金六拾貳錢五厘
說	全	貳冊	金三拾錢
畧	日新社	全	金拾六錢
學	宮原直堯	六冊	金壹圓六拾錢
彙	村上典子	壹冊	金貳拾錢
篇	松原新之助	貳冊	金五拾錢
學	松本駒次郎	全	金三拾五錢
論	村上要信	壹冊	金拾五錢
草	勸農局	全	金拾五錢
學	平坂閑	貳冊	金三拾五錢
書	武田鱧吾	壹冊	金六拾錢
篇	陸軍文庫	全	金五拾錢
携	荒井宗懿	全	金四拾五錢
法	宗我彦磨	全	金拾貳錢五厘
書	村崎常治	全	金四拾五錢

東京 育勸堂發行

叢書
養蠶圖誌
全

姑 友 田 思 齋 公 孫 著

故成田思齋翁著

勸農養蠶絹誦全

東京 有隣堂藏梓

序

目錄

玉鋪... 勸農... 養蠶... 絹誦... 全

孫家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 曰千八百と云。九收。其家の子孫を以て本。
 九と云。其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 収。其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 本。其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 の人。其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。
 其家の子孫を以て本。乃以千五百と云。

宣宗皇帝御筆



勸農 叢書 養蠶絹飾序

國より農桑の業を人ふ左右の四肢あるがごとく、
 一方闕ても其要を為すと何となく、
 蚕業よりや紀土地あり恐る願くは農桑の業を以
 る身を修め家を齊ふるに下民はあらず、
 男を農事と勵む女を養蚕を營む更し農事は妨り
 ならず農事又養蠶乃障ふならず、
 己は養蚕の家小
 へ冬より夫食を貯ふ法則あるよし、
 若飢饉凶年
 かし、其憂を免れ幸あらむと、
 此書小孟子此

不爲と不能との語を擧て蚕業の對論せり宜哉養
蚕の風を移さば民も農桑の左右備ちり人も四肢
の働あふるまあましく水旱の廢地を最上の桑畑と
り民家おのづから豊饒に成行遂に國恩のかま
けあはをあり君も忠勤を勵と父母も孝を盡し
妻子眷屬安穩に成るいと成田思齊翁ひよりあ
ろをゆる糸をあずり養蚕あは國郡を誘引せよ
欲し今此書画入二卷を編り歎むいと云々予
翁の此書と見ふも蚕卵のまゝめより養蚕始末は

取扱ひ兎あまの益角あまの損まゝ五禁の説をお
けし初心の過あらんあまをあらまゝ或を來の
つむを役とする木あるかゆり摘まむの却て所
務まゝあまと此説周文王養蚕を民に諭し給ひ
しより以來三千年いまだ斯のあまの格論を聞か
鳴呼至きり盡せりまゝに諸國年來仕馴し風をさ
らりあらためよと言ふい何ら以是養蚕を何らた
ふ營むやあるを此書に徹つゝのゝとねりゝ事あり
き予翁と竹馬の友あまの此事も切磋琢磨せられ

一 厚心こうしんを思ふおもありし小志こしを舉あげ言ことふ

文化十一年甲戌春 洛陽 增田春耕 題

勸農 叢書 養蠶絹節卷之上

凡例 思齋 成田重兵衛著

一 諸國養蠶さくせんの流義りうぎ千差萬別ちんさばんべつありて雜具ざうぐも少く種々あり其中小是こをあらひ非ひをあらはし前編ぜんぺん蠶飼絹節さくせん乃折本おれほんより蠶さくの生なまをいぬ其日そのひより糸小終こしゆる其日そのひより日々日々に守護しゆごを見安やすからんをめ委あく記きすといへとも中ちゆうより論ろんをかき思おもふ類るいを今いま此こゝ卷ま小圖画こづがといふ照てらし合あせ工夫くふうありし一異朝いつてうより養蚕さくせんするところの圖画ずがをえし小歴代これんたい

聖王民ヲ御一ツありて以來中古百二十年
以前清の世康熙帝乃製述耕織圖といふ書ニ圖
画えがきを多ク用テ我朝の室婦むすめの似にまはる雜具ざいぐヲ多ク蠶かい
飼かひをすこ我邦の東國筋しんも室婦むすめと藁わらだ籠かご少すくテ
養蚕やうさんを多クと一々ため一足る小皆こみな不便利ふべんりかり又
釣繩つりづなと柶しやく一管ひびとまめと釣棚つりたなと造つくり庭にわあは養
蚕さんを多くと此の六疊の間まにて三十疊さんじゅうすべり出來
るまふまふ便利べんりあり又近世きんせい網あみふる蚕下さんかと一
あり二人此業このわざを一人あはるまふまふ造つく作さあり

く其便利能べんりとらんがつあらば終つひふの風ふうとらん
一諸國乃益あきともあるらん

一我朝十六ヶ國乃外小の養蚕此風土ふうど不あは應ざるゆ
育そだちがま一と思ふの蚕かい此性質せいしやうを知らざるゆ
あり抑蚕おさを有情ゆうじやうあるゆゑ暖國だんこくの早はやく生なま寒國かんこく
ハ遅おそく生なま風土ふうど此ちのハ天然てんぜんとありゆゑ何なん
もの國くにも育そだちのハ此こと言いふとあ一委まかし卷中くわんちゆう
とえ考かんがへあるべし

一飛驒ひだ信濃しんぬより東國とうこくを廣太無邊くわうたむへんの土地ちち多おほきゆゑ

桑畑は多きおと春蚕もくり飼事も掌し何なり
 冬春少くも繭をいせお俱るなり夏蚕飼うて死
 おと至極せり然るも土地狭き國々を一反の地
 面より毎歳金二十兩づつも所務収納するあり
 春蚕一所務するを出來かき前編絹篩乃折本
 記する所を挾き土地より所務多あることとせ
 證を以てあるはあまの後にも人必す嘲り咎
 むおあつちのれ

一蚕業とする國々小種々此惡習國風小染と勞一

て益あり失あり類其一二春蚕小諸蚕をくひあ
 るひい蚕と薪よ何けせし大繭をありけし
 取込糸よ繅の類此外魯桑荊桑は損益まじ雜具
 此不便利すく一々卷中の書と画とを照し何そ
 せく損益よ心を盡さぬかあらは益を得るおと
 鏡よかきく疑ひあつちのべし

一蚕小大毒あり春蚕り冷雨ありはく夏蚕よ霖
 雨より蒸暑をり天災ハ性得きり小大毒ある
 の申名一國一郡悉皆平等定不作する物なり

是毒也至極と知べし故に世俗誤てぬを素と毒
かりと申し傳ふとも濡衣に炎て毒より何れに濕
るを嫌ふのゆゑあり末卷の圖と云く工夫何る
也

一 蚕數由乃ち偶一僻^{ひそ}のりて繭とつらさ
るその一名ツ屑の名有然し和漢の蚕書に其名
と其僻とをいふものあり蚕業といふむ人其
名と知ざして養蚕そは謂ふ予是を爲し其
僻とよひく一々褒貶を加ふるの事

一 蚕業は五禁あり此禁を精熟人を百年より一歳
も繭を不作といふ事あり蚕に諸病の五禁あり
出若五禁一ツりても犯らば終は是より種々の僻
出づ勞し功あり夫養蚕を習ひやましくして和
漢此禁を傳ふる人あり予是を深く歎て五禁と
題し初心に人の過ちありんことを庶幾ある
と志す

湖東長濱ノ北相模村
成田重兵衛思齋翁
文化十年癸酉冬

養蠶五禁

第一 糸の糸乃桑ほめ糸の筵蒸暑のほめを愛ふ
溺もろ火ろろ何ろろむふろ蚕乃性質よき
ろふ毒あり

第二 蚕幼雅乃と糸薄きとおの厚きとさろふ
但蚕成長ろ庭起後ろ桑たろさんろ喰せ
むいろがと何ろくてもろろからば

第三 蚕下高くち金志けるときろふ別ろ雨天
法ろ起のせろ蚕下志ろゆるゆろかろ志

むろ一蚕下とろ守護怠るろ

第四 炎天に糸の糸たるろ燂れ臭氣中ろ下
糞をかけろ燂へ炎天のほめを惡臭たろ

ひ半町一町隔たる桑もろあろふさかく
る風ろ臭氣桑葉にろつりをろあろ糞

第五 蚕を何ろに宿敷おろあろろ宿蒸
り繭何ろ糸目ろろ

常々筵網等干乾ろ後飽ろ冷心得肝要ろ

いさゞはけめさるゝ五禁乃らあも別して蚕の性
了大敵なりさるゝ末卷ふ一僻つゝ屑の名ある
りのお乃五禁うふとるゆゑありとある
五禁一ツもあやすりふくむ十年も一度も不作
な一五禁少一も犯せと十年ふ一度も上作あり

養蠶諸色覺へ易きと覺へ

かゝるに乃手ほと死の事

一 桑摘 二年 活きたるを木痛くしてえと葉あげら

上手に摘むる木を枝葉茂り下手は

一 養蚕 一代 活物申名一生替古と可心得事之

覺へやま死をのなきとも上手ハ糸

一 糸取 三日 目多くして然も糸上品なり下手ハ

糸目少く糸下品あり

灰汁の加減四方乃耳とまきと上手

一 真綿む死一年

とれ

一 蚕紙の製一日

一 真綿引 一月

一 真綿紡績半年
塗桶少くはむ

一 絁糸紬

一 上機少く絹織習ふ事半月

一 糸繰分 三月
糸を水にひきまきしよくかきとめ
糸を水にひきまきしよくかきとめ
糸を水にひきまきしよくかきとめ

真綿を引のまきして細を製す結
城はむは是なり

機を經る小切經よりなる也
ハ繼目ととらるるもき益なるに

糸を水にひきまきしよくかきとめ
糸を水にひきまきしよくかきとめ
糸を水にひきまきしよくかきとめ

持場まて
かせうける圖



撚車まてまひの
真綿糸を撚る圖

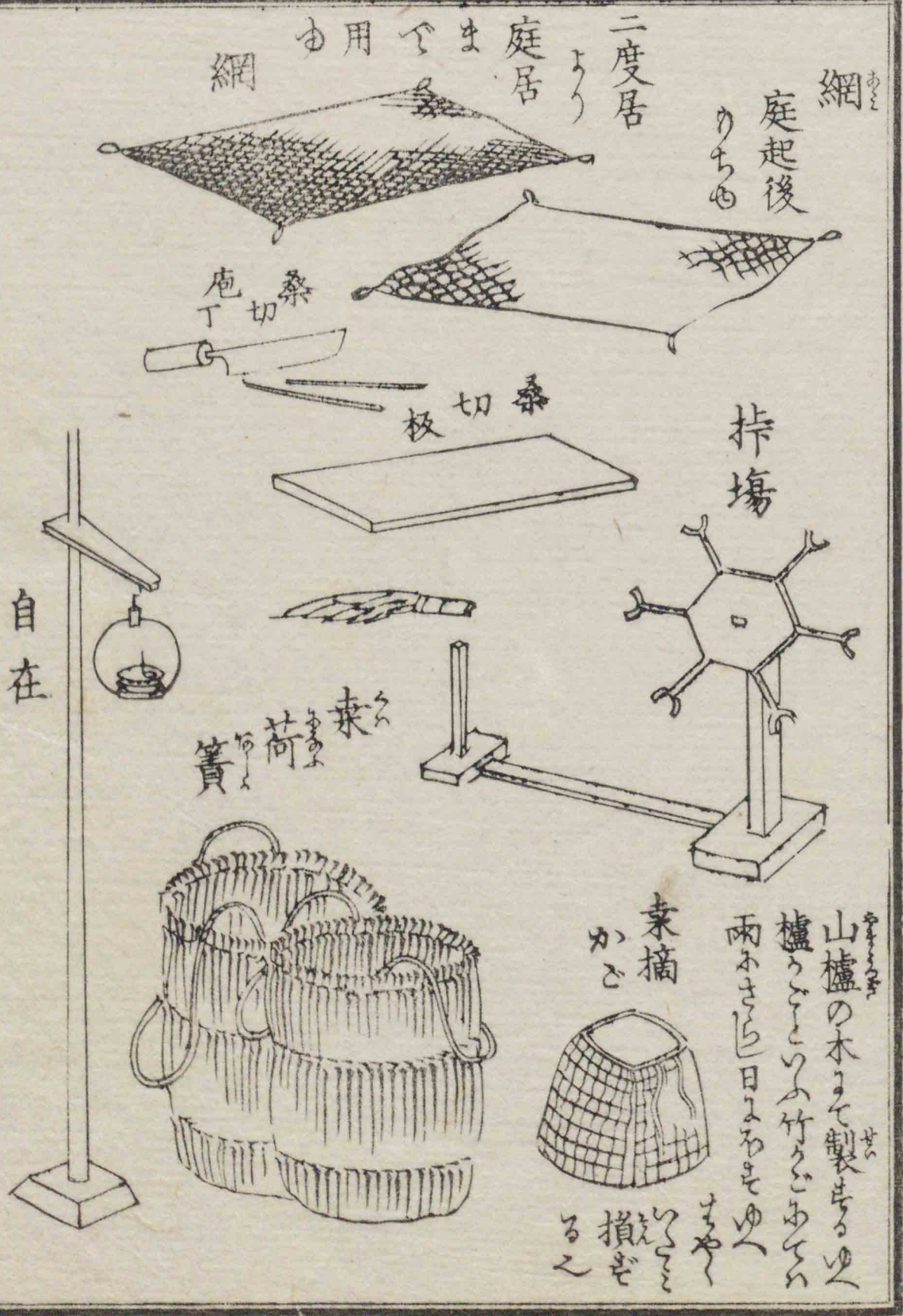


舞場まて絁
紡む圖



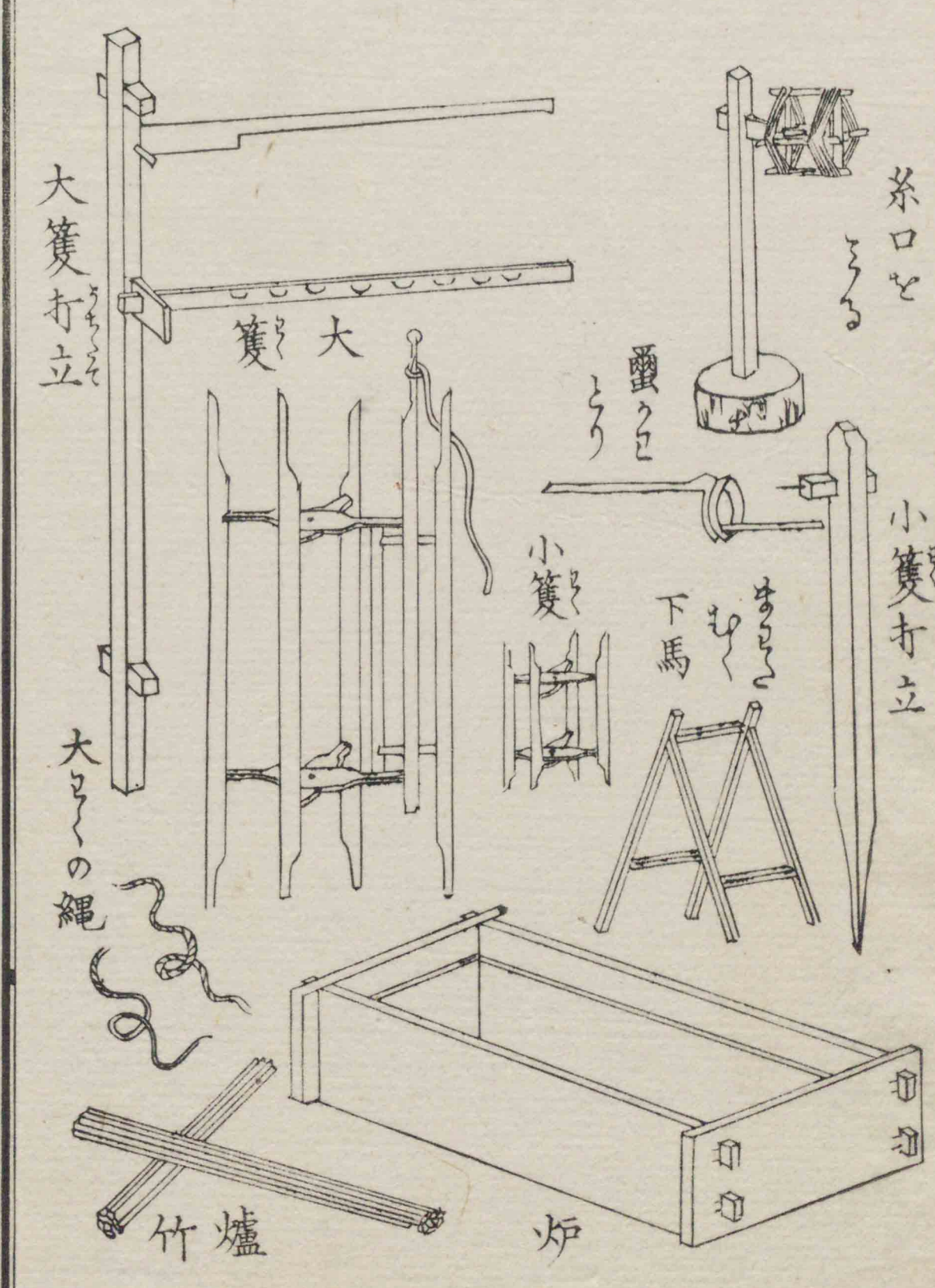
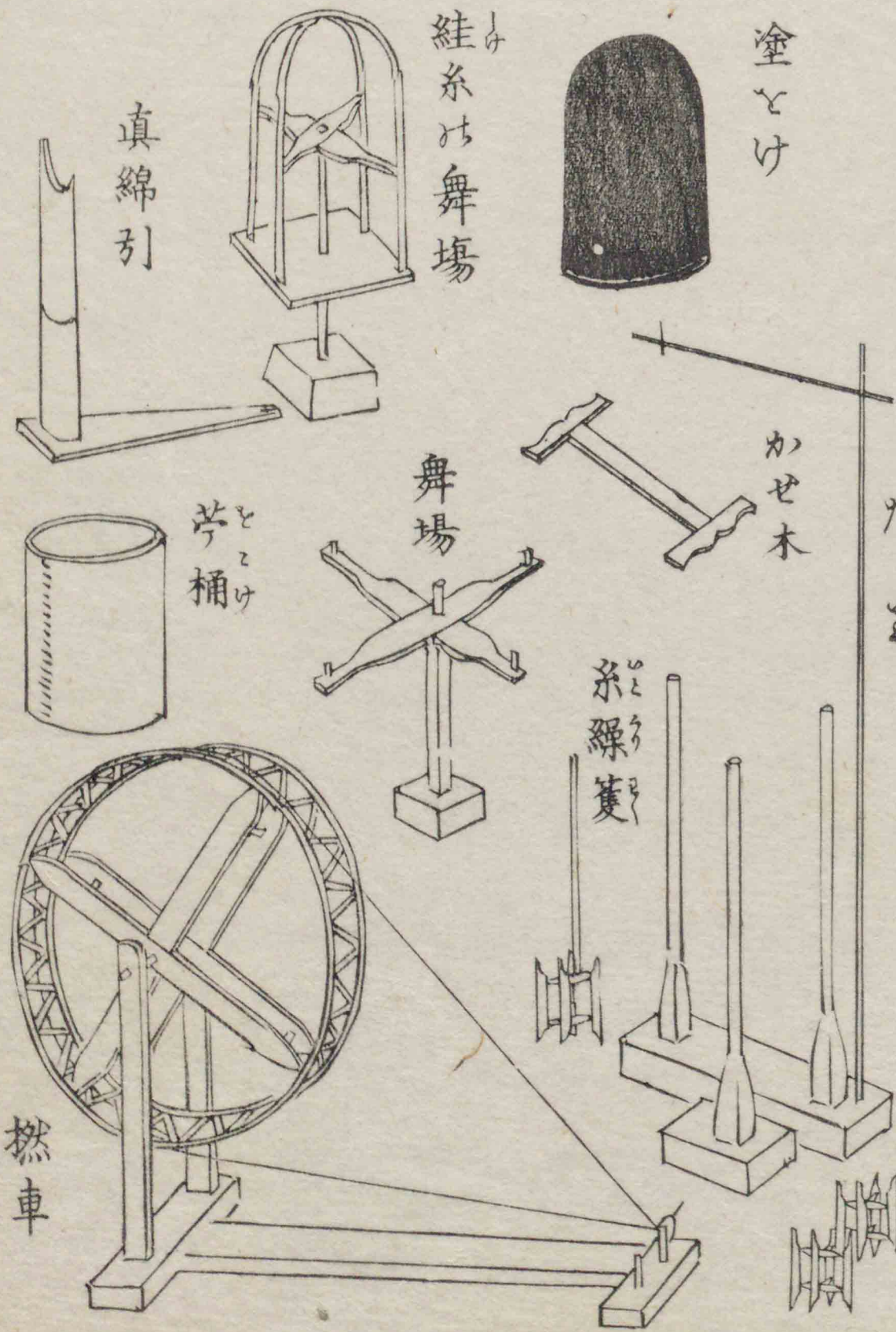
たるまて糸の太
細を繰る圖



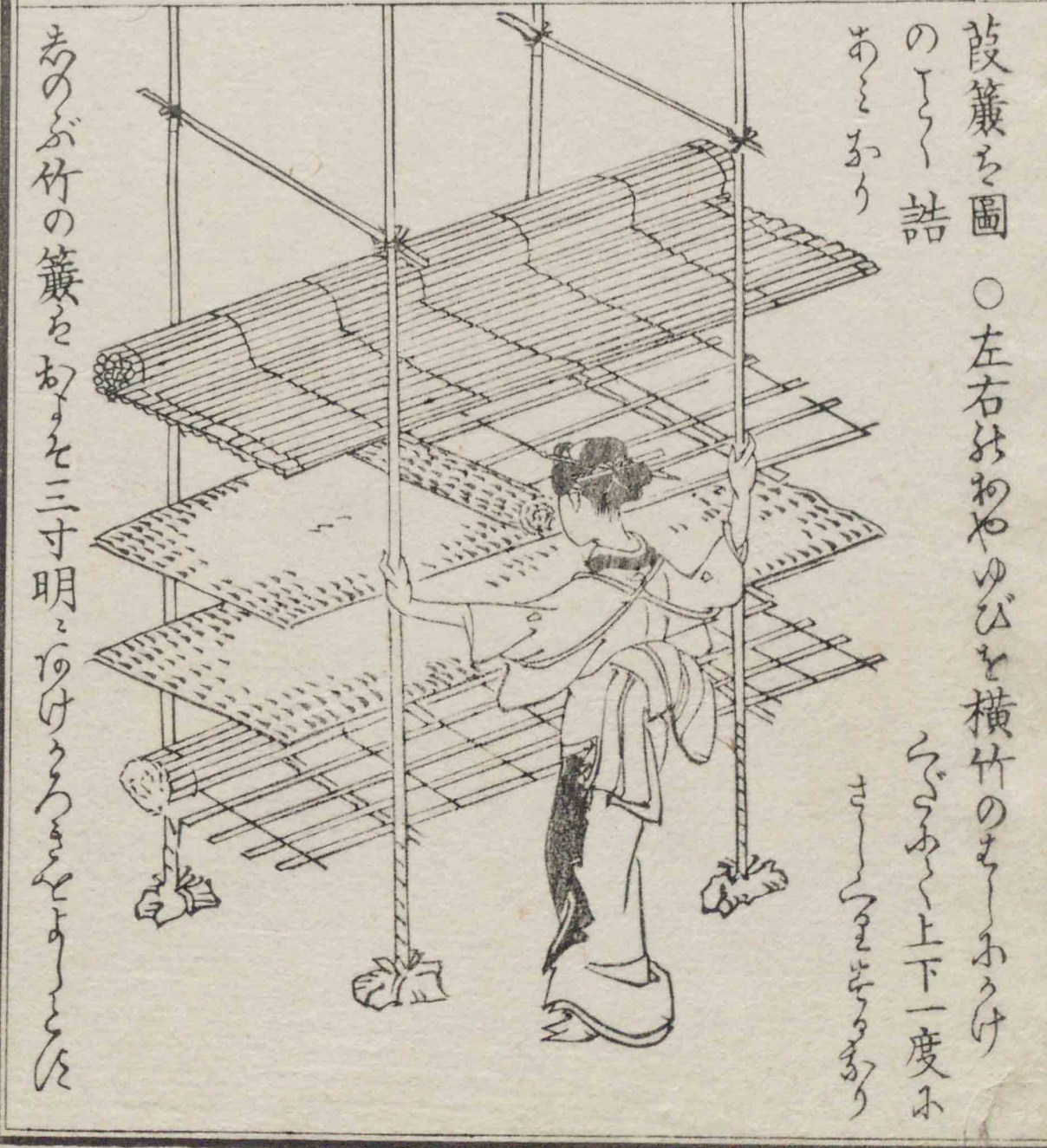


山櫨の木にて製する
櫨うごごの竹をいへり
兩ふさじ日よるを
素摘
かご
損ぞ
る之





此釣繩を苧繩
 の管をこき
 ぎんぐろ
 薫繩を吟味
 しくまきまき
 ゆろふ心得ある
 づー
 但しニツぐろのみ
 まてのまこころだ
 りと記まきまき
 何



段簾を圖 ○左右はわやゆびと横竹のまふけ
 のしつ詰
 あまおろ
 ふうあく上下一度ふ
 まきまきあり

あのが竹の簾をわやを三寸明のけくろまきまき

養蠶物論

文化十年癸酉歳春蚕夏蚕凡惣日數積書

例年はし
 あまらあじ

四月小 四月八日夜 三日蚕生羽ふて幕十一日一度居

四月三日八十八夜 十三日一度起 十九日二度居

四月七日五月節 廿二日二度起 廿七日二度居

廿三日中 廿九日三度起

五月小 五月 六日庭居 八日庭起

九節 十六日蚕揚る 廿日繭くき

十六日入梅 廿一日糸取初 廿四日蛹出る用心

廿四日夏至中 廿八日蛾出る 廿九日諸蚕紙製

六月小

六月 十日復蚕生羽をく 十六日一度居

五日半复生

十七日一度起 十一日二度居

十日六月節

廿二日二度起 廿六日三度居

廿二日土用

廿六日中

廿七日三度起

七月大

七月 二日庭居 三日庭起

十二日節

八日蚕揚 十日繭うき

廿七日中

十二日糸繰初 十九日蛾出る

右春蚕凡四月二日に生を五月十六日迄四十二日目に終るなり

但諸蚕を何々する日より十三日めの復蚕紙出来又十三日め小

復蚕生る 原蚕乃をものの行蚕との別種あり春諸

蚕を飼く復蚕のしつねを取る也

右復蚕六月十一日小生を七月八日迄凡廿七日目に終る也

但暖國を八十八夜より十日も早く生を寒國を八

十八夜より廿日も遅く生を惣日数を凡同然あり

一本場蚕紙志枚上作あく凡筵廿疊揚充あり

但一疊分れ繭 凡六百目りき

二十疊れ繭目 凡二十二貫目

並作あくも凡十疊揚繭目凡六貫目

一 養蚕一疊分始中終乃粮摘来凡八貫五百目十年平均

一 春蚕来拭目壹貫目十年平均 代銀凡壹匁十年平均

一 复蚕来拭目壹貫目十年平均 代銀凡八分十年平均

但桑不足の年の壹貫目ニ付貳匁余十年平均も及ふ十年平均所あり

一 桑摘手間一人課凡十貫目十年平均但魯桑十年平均比能茂十年平均り十年平均る十年平均ハ

一人役凡三十貫目迄も摘もの十年平均あり尤荆桑十年平均ハ所務十年平均

格別十年平均き十年平均か十年平均其上桑摘手間三増倍十年平均も入十年平均る十年平均損十年平均あり

一 桑摘賃壹貫目ニ付 凡銀二分十年平均ツ十年平均人

一 上畑一反凡桑百本植 但三坪十年平均に一本十年平均ツ十年平均人

凡十々年目を成木十年平均比十年平均さ十年平均り十年平均と十年平均し十年平均高サ二丈

余り作る十年平均なり凡一本十年平均ニ付平均十年平均し十年平均摘桑三貫

目十年平均ツ 右百本乃桑三百貫目あり

复蚕十年平均ノ摘桑右同斷十年平均し十年平均て三百貫目十年平均を全

右春复二季比来合六百貫目也凡二季十年平均乃養

蚕七十疊當の粮十年平均あり十年平均あ十年平均の十年平均う十年平均守護次第十年平均に

く八九百貫目迄も何々十年平均の十年平均なり

右七十疊比繭十年平均七四十二貫目糸真綿十年平均あり十年平均て延一

疊分凡銀十二匁十年平均ツ十年平均は積り右七十疊所務合十年平均し十年平均る

銀八百四十匁此上守護次第あり上畑一反の所
務金貳拾兩迄も有物あり但十ヶ年目より末を
守護宜しかりの所務劣るゝ心得べし

一中畑一反凡桑三百本植 但一坪つらに一本

凡七ヶ年目と成木盛まとて高サ二丈斗りに
作り凡一本ニ付平均つらして摘桑八百目右三
百本分乃桑二百四十貫目復蚕ま摘桑又二百四
十貫目二季の桑合四百八十貫目凡二季乃養
蚕合五十六あて疊當の粮あり此上守護次第あり

上畑ま准す右五十六疊の繭五六三十三貫六百
目糸真綿あり代銀六百七十二匁但延ひ一疊分
凡銀十二匁つ當るあり

右の中畑一反の所務之此上の守護次第あり桑ま出来
過いありの也但七ヶ年目より守護ありて木下ま

一下畑一反 凡桑六百本植 但一坪つらに二本

凡五ヶ年目と成木盛とて高サ一丈余ま作り凡
一本ニ付平均摘桑三百目右六百本分三六百八十
貫目あり又復蚕ま摘桑百八十貫目二季に桑合三

百六十貫目凡二季の養蚕四十五疊此糧之此上六守
 護次第はく中畑に准む右四十五疊の繭四六貳拾五六
 七貫目之糸真綿あり代銀五百四十匁右者下畑一反の
 所務あり但五ヶ年目より守護悪くして所務劣し
 心得べし尤桑一本はく葉三百目ツハ捨作りありも
 有りのあり右を魯桑ろまう此さん當とうあり又荆桑けいまうより
 同一守護尿ちりありも格別所務すくありて損
 但土地の水脈に應せざる魯桑も荆桑よりあり
 あり此かんぐ有る

例年二月初午の日
 士農工商ともは稻
 荷大明神とまつる
 あり諸國一ツあり
 又養蚕といふあり
 郷に強て稻荷大明神
 といふ不限其村郷の鎮
 護の神へ太鼓鉦ありて
 祭とあり老若男女
 のあそびありあり
 あり



又家々ふゆりちとつ
 へる繭の形は團子を
 製し産神に供は是
 とも申がんおとつふ
 養蚕を祝して俗に初
 午まつりとも蚕まつり
 ともつあり



一 養蚕手馴し後を稲を作るも蚕飼をまつりも替る
 あらふく十年平均乃所務右等の筭當小格外
 相違をなほとのあり尤木綿藍なほの年々豊凶
 有ものゆへ所務もずれた格別ちのひ有とのあり
 蚕も有情の活物あるゆゑをゆへ臨時の天災
 あらふを半減乃筭當あてても

上畑一反半減あて 銀四百貳拾匁
 中畑一反半減あて 銀三百三拾六匁
 下畑一反半減あて 銀貳百七拾匁

天下此萬物ありて産物を變じて有あり
然るも我國蚕業ありて開きたる世々蚕業の書
世は行もとざるゆへに養蚕の志を人有と
しつゝも家と建るゝ定規ありて方角を記し如
あがく歎息もなきに此事あり

一 養蚕といふも夫婦二人のつゝみ

凡 春蚕二十疊 夏蚕二十疊 當なり

一 六疊敷乃間ての春蚕三十疊 夏蚕三十疊 迄出来
るなり 但 釣棚二ツつり 一棚に十疊の管あり上下

差りのなるなり 大家小家棚敷多少是よりなり

一 糸取一人役凡繭十五六 縮緬口と繭八百目トヤウ 常人六百目

凡 繭十二より七八迄撰せん 糸口と繭五百目 常人四百目

凡 繭七より五迄羽二重口と繭四百目 常人三百目

一 繭百目ニ付糸目九目ありと九歩といふ極上作

但 並作めての繭百目ニ付糸目六目は六歩といふ

一 糸のり賃糸百目ニ付縮緬口凡銀四匁より四匁五分

撰糸口凡銀五匁より五匁五分 羽二重口凡銀六匁五分 七匁

一 大繭のり糸繰賃百目ニ付凡銀三匁五分より四匁五分

一大繭真綿むき賃綿目百目ニ付銀二匁五分

一春蚕種紙目方正味壹匁ニ付壹匁より壹匁五分

一復蚕種紙目方正味五分ニ付銀七分より八分五厘

但春蚕を蚕卵壹匁あしく延一疊揚

復蚕を蚕卵五分あしく一疊何れか也

一蚕一度居乃時延一疊何れか凡十六疊揚る當之

一蚕二度居の時延一疊ハ八疊何れか當之

一蚕三度居の時延一疊ハ凡四疊揚る當あり

右いつとも厚けきい厚成薄くもい薄成此割心得

乃一尤有情乃活物の名定規あを成こころ

一春蚕を出産より惣日數四十三五日にかもるもの

あもとも桑の養ひ繁々もい四十日あも何れりや

桑之いつともい五十日余も延るものあり

一復蚕を出産より惣日數二十五七日に終るものあり

とも養ひあけきと廿二三日も何れりや桑之

いつともい三十日余迫も延るもの也日數比緩急二

季とも延るい不好あけく養に仕損一あり

一斤蚕の蚕種紙ハ奥州本場の産を上種と一り近

國遠國は蚕紙商人例年三月四月のあろより已
 う國々を發足して六月土用明迄奥州乃旅宿に
 滞留して炎暑の節千辛万苦れ心と盡ること云
 も更なり扱七月節の日より三五日と経る秋風吹
 る冷き夜を待丑の刻ふ蚕紙を荷物より作り遠近
 の國々へ持帰る山川の旅中残暑絶かゝり折節
 故蚕紙荷物ふ昼の暑と厭ひ日中以内荷物とさ
 へ一毎朝丑刻より旅宿を立毎夜亥刻ふ宿より着
 遠路の心配仮初る事あり

清朝の康熙帝ハ韃
 韃より起て中華一統
 としつめ民は農業を
 導給ふ耕織圖といふ
 書物と製述く豊澤園
 の傍り田地をくくらし
 畔境を来とくさせ知
 稼軒といふ臺より御幸
 一給ひ朕尊位は呀一
 て飲食豊味は飽民乃
 粗粝を食して田野ふ
 らむをくく常ふ
 米を喰ふる百姓乃

宮女養蚕圖



辛苦をわめひ帛せき
 ろみの織女の艱苦を
 思ひて農桑の書千
 三丁ツと全部して一
 紙して詩を題して
 皇子王孫群臣とつ
 しの自然と下情を諭
 して給ふ富の四海をた
 のち貴と天子の身と
 して聖教万民をひ
 天下大に治めしと聖王
 の徳澤ありし



一和漢とも蚕紙を寒晒するに一二晝夜或は四五日も水
 浸し置氷に閉させて其後蚕紙を掉りけ家内小
 自然と干乾なり其故いんとをまがば蚕幼雅乃
 時冷氣と不恐よく志のくとの小卑竟兒女の妄言
 信まらふ不足さ事也蚕卵のうちに入定して春に
 陽氣にのよみさきと天性卵の内より生を出るとこと
 ひ寒中三十日ひくく置とも入定何と是を志らん
 や紙煤ともと何らひ清むるもりの寒中小限らに
 唐土あくの毎月洗ひ清むるなり

蚕紙を貯置よ
 匂ひある箱よ入
 置ぶるべし
 蠟燭行燈の油
 煙沈香林香等
 乃るやうせが
 ちば蚕卵の内よ
 居籠死く一虫
 も生も出まか
 らむ心得あふ
 だ



蚕生も出くる日より
 三日めふかきうき掃
 まい何れそ一掃う
 せんと思も五日後
 の凡出揃ふもの之圖の
 しく掃へ必む厚を
 きらふ若五禁せりする
 る時を勞して功ふ
 何れやうかひ切そ
 薄飼へ復蚕の生
 とも出くる日は限り必ま掃へ二度居あり来の之れ圖の如く
 網をうけ二三度もり来をうけ二人まもあはれ四を
 のち乾きたる別のむらうらうら網を其儘敷置ふり重て
 尻をうける時此網を干乾あり常は網の用る様是は習ふべ





一度居
まねあへ
蚕下せ
かゝる圖

不
天



二度居
網よて蚕下
かゝる圖

のちの是よ
但二度居

古畳やうれ
ののま

養蚕と

二度居より

おろろまて

飼あり

三度居

自在をとり

寝桑也

くまき圖

管まき棚也

あげまき

并自在の

あぢ

さげ

のちり

あまふ

やう



圖のこま網まき糸

上まきろと

かみまき

あせらせ

直まき圖

たぐわ

おろせ

や

かま

圖

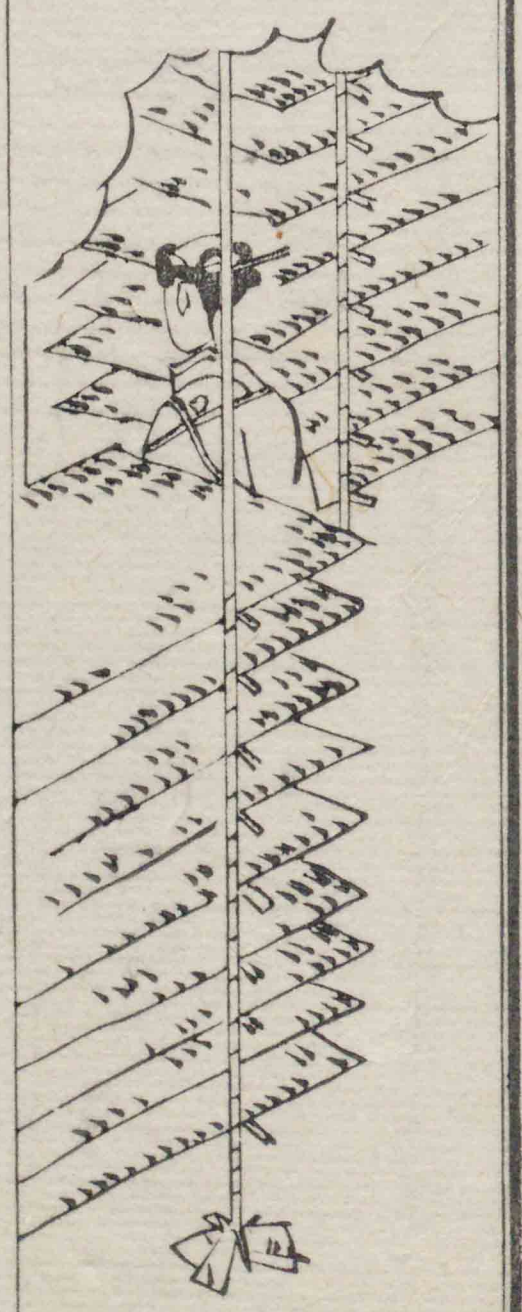


庭居

圖の〜十五枚ツ
 八つ〜百二十枚
 あり但棚とたゑの
 何ひ〜三尺あけ
 下のむ〜より乗と
 喰〜き〜り
 へ〜て上〜る迄
 あげ〜足次を
 のち〜乗と〜
 ち〜り又垂下



かゆ〜も
 へ〜て上下
 さ〜り同
 断かり



一一時〜人を諭まの口と以て千歳人を諭まの書を以
 すさ〜の異朝明の代清乃世り至〜蚕来乃書籍
 彫刻あり〜おと數本ふおよび〜大よ海内不行ま
 一〜以来幽谷海隅卑劣の賤う家お〜も蚕業の
 書に化せ〜も養蚕何〜ね〜天下に繁昌〜

荒亡乃廢地も自然とひらけく糸の價も賤げんふな
るる國用充満せりいふとるるそめとるる然るふ
我國も古今養蚕乃書涉しやうしるるも漢文かんなり
婦人のこと知るをゆきくよきかかのつら
蠹魚いその食となり果もてもるぞ歎あかしきとあり本朝
の寶曆年中に養蚕秘書い全部一冊又享和年中
に養蚕秘録ひ画入全部三冊彫刻せり此外そる蚕業
の書を論判ろんする人古今絶えくなく往古むいより謂いる
あつり風ふうをうつるる書籍しよより能よいなく惜かい

かか我國養蚕いふ精粹しやう書籍しよ普ふく世より行いちさるる
がゆゑ農桑のう此業しといふあつとせあらは只蚕業し
耕作くわう乃妨さまたりあるとのとおひふらあつちひ
ありつづき此國こも卑損ひあり五穀ご不熟ふじゆく此地しも
何なにも洪水こうあり荒亡わう乃地ちも何なにり何なにるひの深山しんふ
る炭薪たん等らうさるる遠路えんの勞らうふ所務しよふありさるるも何
りあつる蚕業しを營いざるゆゑありと知るふ
是こる爲ためにゆへより農桑のうとも衣食いともや
男おとこを耕くわし女めを織おむこの聖教せいをすつるる五穀ご不

熟地は来を植る生産とする由急なりと心得る

一 養蚕を逸民あつての營にかつて業なりと思ふら養蚕は趣意ふうと記る由急あり抑養蚕は百姓農家の業あり交の墾納田地のうへ付田のさきり此間々に蚕飼をするの由急異國あり農桑の業と称するゆゑ農作と養蚕といふはまきつる物ふあらざるあつて諸國同様ありさき々乃風土り随ひ農業早に國あり遅き國あり其

一二をいふ江州近國を五月節前後ふ交れ墾納田うへ等す終るあり又濃州岐阜近邊の五月節前に苗代へ籾をす記半復生前ふ田植終るあり隣國ちもとも凡三十日此遅速あるあり是ふ准とく養蚕も又遅速をあつらつてるあり已小江州あつての養蚕は八十八夜前後生を五月節後ふ終るなりす奥州會津の近邊は五月節前に養蚕生を土用前に終るあり此類不遑數舉あつて美濃も近江も奥州も農事遅

速乃ほとよけり應じて冬より蚕種紙を或を箱
 に入風乃入さる箱ふめをうりして寒地所よあき
 て十日廿日三十日も蚕飼の方あて遅速をあ
 らし差繰さるゆゑ農業早に國おもかを記國よ
 も聊う妨おふあらざるやう天然自然と仕馴る
 事かり但二季とも養蚕のあとの過るすをいせ
 こゝ記事のあきめはあり漸春蚕盛りは十四五
 日復蚕さとの星は十四五日此間うあつまゝ濟と
 落居さる

木喰虫の圖



○乘れ木よりむし付る空虚穴う成りはあり元來
 木より生いたふ虫ふあらは髪まきり虫の卵虫
 よかつりり木の真を食ひ下り數年とつる空虚

穴うちりく木痛むなり梢乃甘肌小産つりたる
卵をみかへくば取べし又木此外江虫尿出るうい
をむふれ脂と少くあても虫穴江入置べしちま
ち虫死しく木少くも不痛心得つし

一 桑苗を江州の産と最上とを桑八十本の所務よ
りも一本の所務多うゆつり其損益と考へ四方
乃國々年々數千駄の春れひうんを期とくく買
得よ登るなり

一 桑の若木よ鮫といふ病付を病根となり成木い

たうそ尿をくくするうゆああり右むしとひと鮫
とも天災にあらは是不能よあらばせざるん

一 八十八夜前後寒冷めく霜ある年うの桑は若芽
痛と腐りく葉をむらけ○青むし葉を巻く一郡

一村桑一葉もあく春蚕飢饉の事あり霖雨あり
つげの桑葉よ○赤さけ○白さけ○桑あくみる

とくひ病ひ付しつり此類天災あく人力よ及む
は是為ざるふあくはあつとざるなり

一 桑の實を五月節後より半復生までふ熟する也

魯菜乃極上來實を撰やりのを潰し肉汁をさうり
藁灰よ交へ苗場よまくあり生出く後度々う間引
く四五寸四方小一本ツ育て十月葉散渴るまで
よ三尺斗りよ成木する是兒苗とよ又生出く時
蝸とりふむし喰さるゆへ心得有る

一兒苗を春の土用に限りうゆりのあり冬植る
ち惡しぬの末三步此よりあく末を伐又根りと
より一寸ちう上あく梢を伐く植付伐小口よ
り芽あきたるを一本立よそとるく五六月よ

里八九月迄乃間に葉しより芽あき出るを悉く
かきとるく十月葉ちるまで七八尺はのりに成
木まふなりかあくば芽をかきうあきとるあと
ちのれ油糟干鰯下屎等はよく守護するし凡
そ一尺五六寸四方よ一本充のはのりれうつ
けふあり

一より木を魯菜乃下枝を春に土用よ地う埋置
翌年の春親木より伐りけ小枝と共うよとれ埋
くよ泥あき翌年の春小枝にねをあらうと

或も五本十本伐りけ數年とほくく數千本と伐
ころころあきを雇苗ころふ

一接木を荊桑に臺木へ魯桑と接をほひかり又荊
桑は何れに苗と堀ころ一尺斗に伐魯桑の梢と
接く畑へ植置をころく接りのかり尤臺木と
芽あきいつるところあらんそのころにゆるに
くほきつるかり

一さし木を魯桑の梢を伐苗場よさし置翌年の春
前のころく小枝と共うよるに埋て置數千本と取

ころころあり又親木乃れをねを四五寸に伐
うつてあきても芽生るそのかり

一桑畑へ植つころるもの東西と幅ひろく南北の
幅せましく間々又麥菜種大豆等はころよ日陰よ

あらざるゆるに心得あるころ又成木の後ひろ
き間江鞍くころといふ足繼をさしあけく桑と摘
時持歩よ便利よ心得何ころ右生苗取木共
前年七八尺よ成ころと翌年の春乃土用よ二三
尺をのり上り梢をさして植小口より芽あけ

出ると二三本立ちると其後葉はに芽出ると
しつとをうまて尿はう守護あると

真の芽と二葉の
のあゝものゝまゝなる
いのきゝらつむ也
真芽を數多とる
とあゝのゝつむと云
復蚕は葉けりそ
徳ありまゝ真めと
まゝあゝたると
荒つむといふ復蚕
の葉もまゝすな
損あり

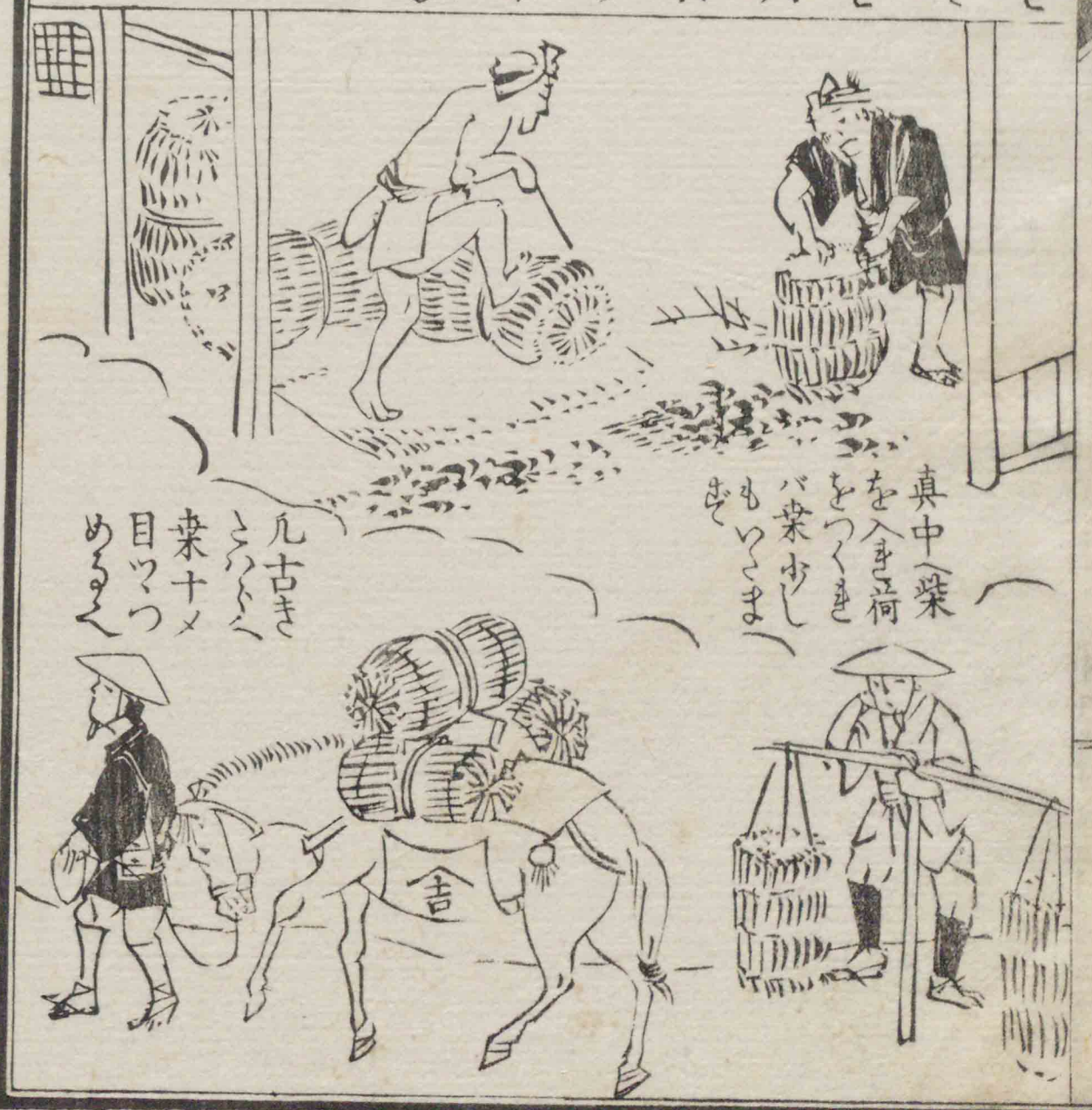
桑摘圖
九子の鞍
掛高サ
丈三尺



十里十五里の遠方より
人馬まで桑を持あゝ
る桑はつむす荷のつ
らゆりの古俵一俵は凡
そと十メ目もつ先
たもこれ真中はかま
柴をさきこゝ入中
のりらげの少も桑
のりらげ前日つむる
桑を二日めり遠路を
とりめせ直り荷とれ
りしつてつむる也



いさうりやめとてさ
おー二日めの糧
まゝの痛ゆが
るし妙なり真
中らららざれ
桑のこゝずいさう
いさむありかり桑
と遠路のちをこび
い桑が
蚕喰すまげ



真中(柴
を入き荷
をつくま
ハ柴少し
もいさま

凡古ま
桑十
目つ
め

送り状免

七月朝日摘
一 桑三拾貫目

お着々多印目方政若桑調多紀つらり多可らり
糸代銀結信とも少拂とぬる糸代信上

七月朝日取ハつ時送ら出明二十年ノ時若免

何村准庵

何村准中

馬士 准
結袋一里百文ツ

一 古より蚕業を論する人た多し 經濟よか〜と紀人の

農業より〜又農業より精き人を經濟と志〜故よ

桑の靈木ある 蚕は靈虫ある 所以を論する人あり

或人曰く何より靈とのふも〜何より經濟とのふ

吾々曰く深山幽谷乃地よの良材多しとつて
 他國よりひきくる人力の費幾多しん勞しを功を
 しする桑を作りくる糸を産する時を他國よひきくる
 一人役より糸目拾貫目を代金五十兩に充ちたる問
 深山幽谷の地よ桑盛木その證有りや答て曰く東
 山道乃國々養蚕繁昌其證なり敢て問ふ名産を
 國乃風土よよつて産する又經濟の人よよつて出
 るに答て曰く善哉問あり予り舊里江州難波村
 林助正九郎といふ二子あり明和年中よりめり縮緬

と織出を濱ちりめん乃元祖也珍しき巧ありと近
 郷の人々よ誘引せらるる予も一見せし漸く五
 十年前より其後追々濱縮緬乃繁昌當時一年
 に數十萬端織出を天下此名産諸人あるとあり
 かりさるる縮緬職をして渡世する人上下何十萬
 人は全く二子乃恩澤の餘薫と謂つるに近
 又ちりめん繁昌よ化せらるる二子此近郷山林河澤
 湖水の濱々荒亡乃土地をひきり來をる五十年
 已來よ糸の産物何増倍り年々よに繁昌せり

さまの産物を國外出るにあつては經濟のひそかに
つづる事必せり此二子不出時をいつの世までも
を海縮緬の名をも聞かぬ況やまゝ荒亡の地
をひらけんや嗚呼二子の徳澤國民神を祭りて
四時を祭をあるらん

一或人曰く養蚕は地利の善惡いゝん答ふいそく
山は添たる國を第一の勝地とす其ゆゑの蚕の性
質乾をよめと濕を嫌ふさまの山は添たる郷ふる
薪澤山なるゆゑ一家に火圍爐裏を切て晝夜焼火

とそく事風俗は常なりまゝ養蚕する所の来を
植る土地すくあつても糧乏しく成かぬ山
は添たるさまの雜木は替りて来をつらぬ
土地廣き事限りある此二ヶ条を求て得るは
養蚕第一乃勝地あり

一其二海邊なり又問吾子先よを深山乃邊鄙の車
力は勞をいゝ今又運送便利の海邊を勝地と
いふ前後齟齬せり答て曰く攝泉より防長まで
北海邊津々湊口土砂あつて川の通船の煩ひ

年々毎不砂浚の課役巨萬の失墜際限か一然る
不養蚕を營と繁昌あり一土砂泥土を桑の
尿最上ある故農業乃いづま公命を不俟と
さ泥みと土砂とけらひ湊口を空海乃深きと
さく通航乃憂かく永代砂さくくの課役に巨万
の費をさくく何とすてふ江州湖水の海邊
五十年以來り數千萬家の百姓自力をのりて海
邊水廢の地を分々相應に開き作りたりて桑畑
とさく海れあつて成りて通航乃自由十日の

るる所ありあは禍ひを轉ト却ツて福とをけり
少つて養蚕勝地乃證據あり

一因曰く予壯年の時備後福山乃川口江通航せ
しころりみると口ふつて方二里をりて此内
海あり泥土埋り于潮の時り空船乃通路さ
る成がまゝ漸満汐とすちて通航するなり此地
乃しき養蚕といとる人々その徳益乃多き
とあらま公命を不俟とち海乃泥土を數年とま
たせりて空海乃深きとあり于しゆ時ふも通

船自由をふるに中々新畑開作年々増多くひ
らけく養蚕不雙乃地くるるべくおひく郡
嗚呼

一夫養蚕乃急務を川筋幽谷海邊荒亡乃地をひら
き桑をうつく蚕業をるるく先まてふその國に
産物を他國小ひきだく國富民さこの申るを國益
とてふまてくやたせり國益と称まるりの増々多き
中ふむく再有季氏宰り賦税を急あして以
て其富をゆきおたらくひるまてく家内のもの

と博奕を為ぐく一方勝る一方負すこなんの
益り何らん或人のく金銀を筋骨のく五穀
産物を毛髪乃く筋骨一く傷とあを躰ま
つからむぞも毛髪を幾くび刺くも中々生む
べあまの那産物他國へ出く金銀内ふりま國
ゆまかり金銀他國へ出く産物まくるま國を
民窮まらむれつとありさま入をまかひく以て
出るあくと製ま是を經濟とてふあつるふ自國乃
民と利を何くまの類ひを仁君れ忌たまふとる

あつてとて

今此書は趣意を唯養蚕を營む事と導くのとあるせむ申名文花を飾らむ有のありと書あると必きゆるせふるべし

一孔子曰く甫いふ予老甫ふ志のいと聖人あて譲りたあふむつあるうねのあつてより學問臭き農桑をいふ人大略業の當るの齟齬さるあつて何り動もまきと躡を東あつて東國へ行んとする此誤るあを譬バ水の火を刻とるうら定理をもとるも石灰り水

と濯を忽火とある然も水を以て消んとすれば益烈くゆるなり天下の萬物其職を何とぞして其營を論する時を所謂石垣と腕押はするといふ口の傳と拔或は傳授秘笈といふの卑竟書あきふ熟百姓を農桑の業よ力と盡さは妙其中よあり又商賣の貧國よ買と豊國よ賣分に應とて利を得ることいさらふ貧よ何とて天授の録あり故よ君子も不知をあつてとせむとて正り此謂あつてん呼

一蚕業を營國々を東山道八ヶ國并ニ武藏甲斐加賀

越前若狹三丹州および十六ヶ國あり尤右等に隣
 たる國々をわのづら風をうつゝや多少養蚕
 ありしころ中古二百年以前慶長元和のありより
 正徳享保乃あゆませおと百年の間は諸國つと
 乃産物およそ一倍りありしころ享保の頃より文化年
 中の今をいふまは四増倍もあはるる十目れば
 やあなりあつゝ糸の價を豊凶平均あつゝ昔
 も今もつゝあつゝなり○或人曰く産物も廣きも
 のい溢るゝあつゝ狭きものいもい開發なきも

何れも時を又何の益とせん然るに天下通
 何を撰んゝ産物の第一とせん善哉問と國ひら
 けくよりあつゝつゝつゝ養蚕乃いゝつゝつゝ
 糸真綿の奇品を國とつゝ貴かゝつゝつゝつゝ
 恐聖主御治世萬々歳乃後ゆくいゝつゝつゝ
 も何れもあつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 だ

一夫我國も糸の産物を奥州第一多くそのつら
 ありしをいゝ本場十八郷乃内めを例年蚕紙百枚

つ養蚕をいへるは、何某あり、但豊凶、定格なきもの
 ゆゑ、算當もゆく、定規り、をかり、く、け、も、その
 大略、蚕紙一枚の繭目上、作み、く、凡拾二貫目、つ蚕
 紙百枚の繭目千貳百貫目、おり、お、緒、く、ち、大繭一
 割半

繅繭目千貳十貫目

此糸目凡七十六貫五百目

金壹兩、付糸目凡貳百廿五匁之

右代金三百四十兩之

大繭目百八十貫目

此真綿目凡十四貫目

金壹兩、付真綿目凡四百目之

此代金三十六兩あり

右代金合三百七十六兩也、是則例年一家に所務之
 信ある、奥州系に多き、あ、と、尤も小家に、て、右十
 歩一の積り、く、く、も、數千万家の養蚕無双の國益
 と謂つ、る、く、く、其國々の君、く、く、の、恐、ち、く、ら
 其民の豊饒、ある、と、わ、つ、せ、ざ、か、い、な、く、く、又下民、く、く、
 を我家の富を希、い、ぎ、う、ん、を、然、ま、く、諸國の風俗、
 養蚕、よ、人氣、く、く、ら、お、の、づ、く、ら、家、毎、よ、富、と、得、る
 事、ハ、前、よ、ある、と、算當、と、く、く、證、と、ある、く、く、惣、く、く、
 馴、く、く、無益の費、を、費、と、お、の、く、く、人、氣、を、く、く、

易きりのあり譬いたゞとい食う何くば樂する何
らに禮義を正すののをも何くば益あるものもあ
らざるも士農工商がするも烟艸を用ゐざる
國々を天下と盡し一村も一之に依ての
ある邊鄙乃のりも里もたゞと作らざるか
一是則ち馴るの移り易き証據とあるべし乗る
も其の家に毎く植るは花の育ぬさるも
まゝといつる古歌乃のりも乘る育つ所ある蚕
を東夷南蠻西戎北狄寒暖風土のちがひを何と

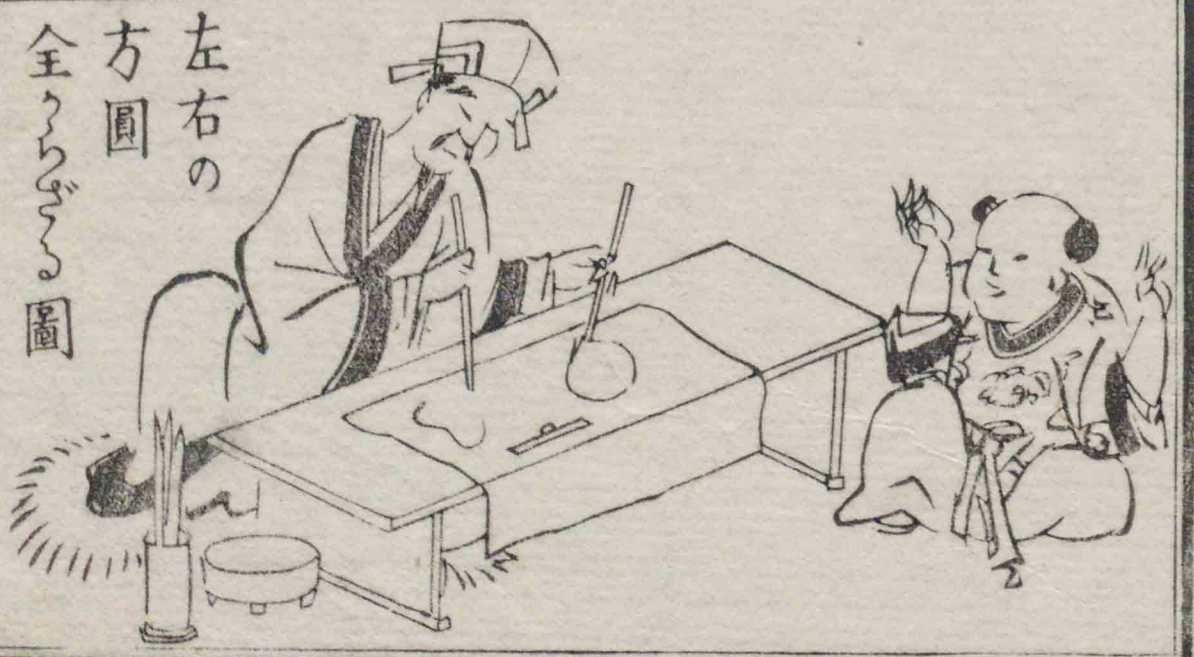
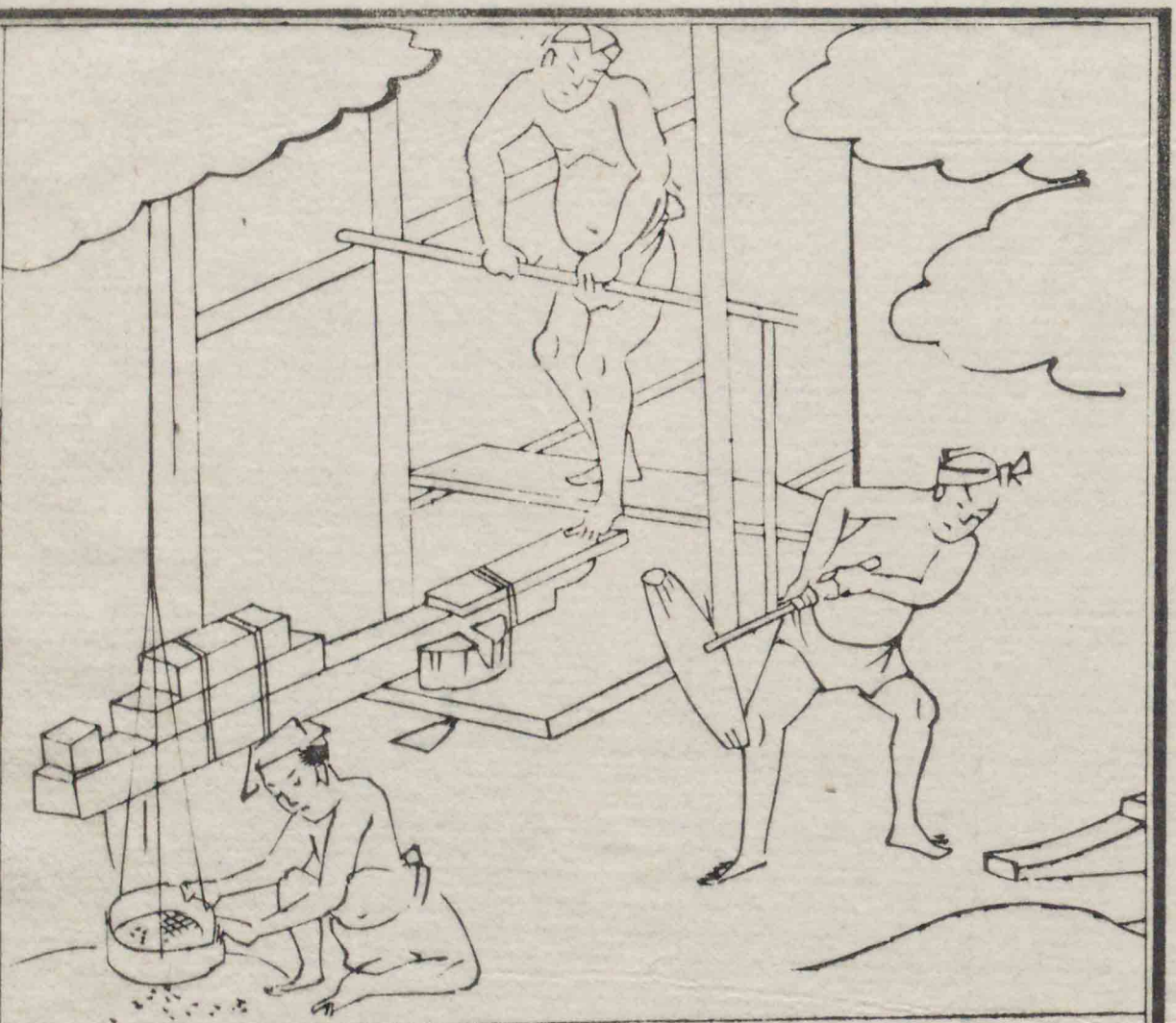
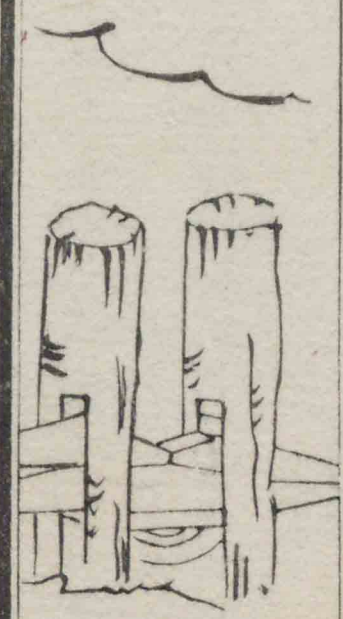
も蝦夷乃のりも東夷の名産蜀江の錦を西戎の
奇品あり此外類をわく證とあるべし

因に曰く右手に方を書左手に圓を書く
時をわくつあがら全く百姓を耕作を
りつる婦人を養蚕を營むと和漢と
も小農桑の業といふ然るも金銀を欲せ
るあはれをあらとせしもの百姓の業
にあはる商内をばめ或は諸職とあり
て一旦活斗は趣外目よかるといふも永

久の業う何れぞ左右の方圓全くらぎのいま
 しめ必法しむるに事なり或人農事の片
 手よ油屋を始しよ合壁よ響く回之音を聞
 ばそんなとありくと聞ゆるをり油を搾るはち
 ひびひのまらんと聞つたそ何中か
 が終り田畠家財を搾あげらまらんと

搾油屋

の圖



左右の
 方圓
 全くらぎの圖

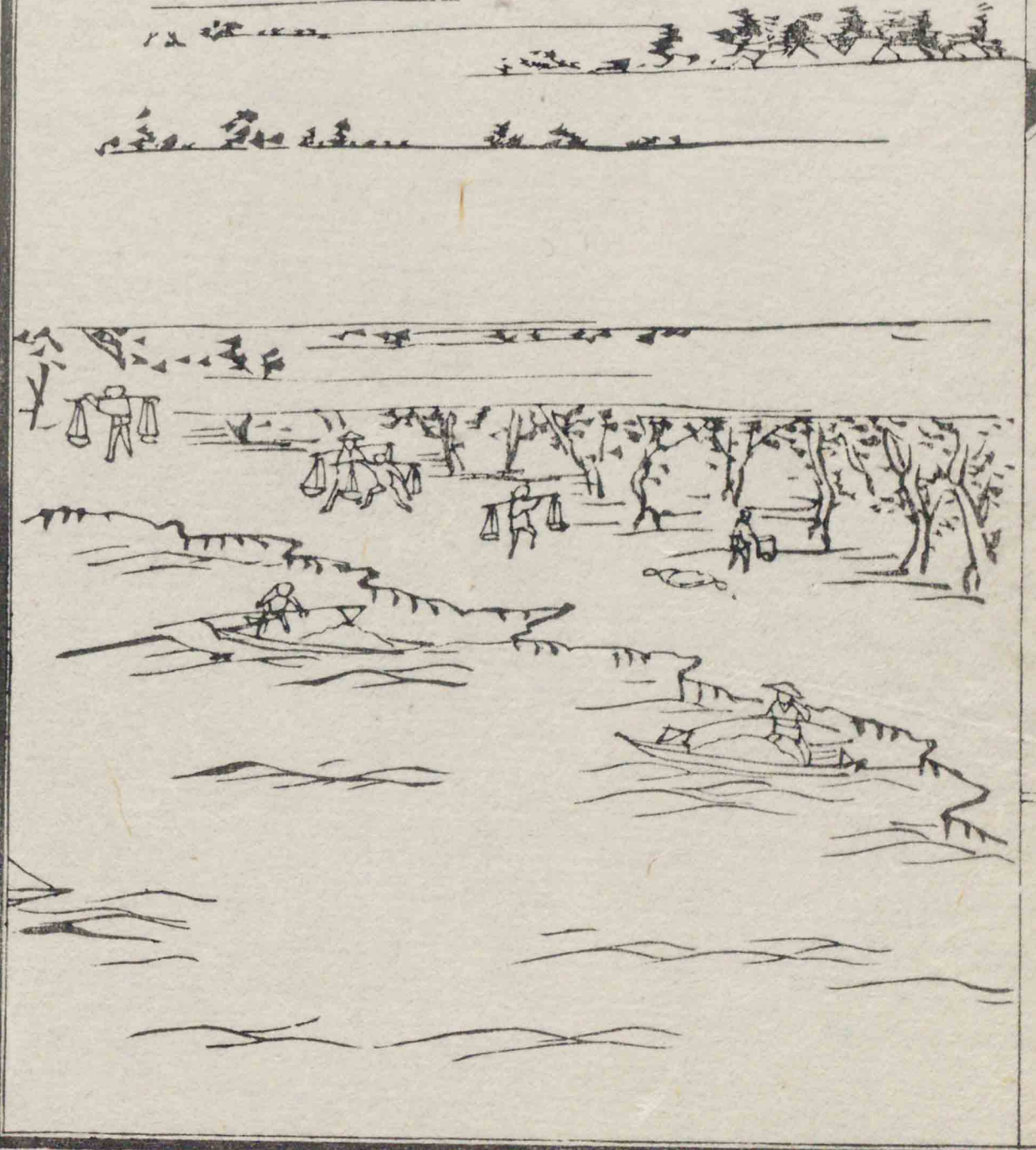
川すゝの國々霖
 雨ふりけりぬる時
 洪水よそ水より
 何き土地り數
 百反の桑畑圖の
 如く大海とひとし
 く五尺壹丈二丈ま
 づも水溢と二十日
 廿日も水落りぬ



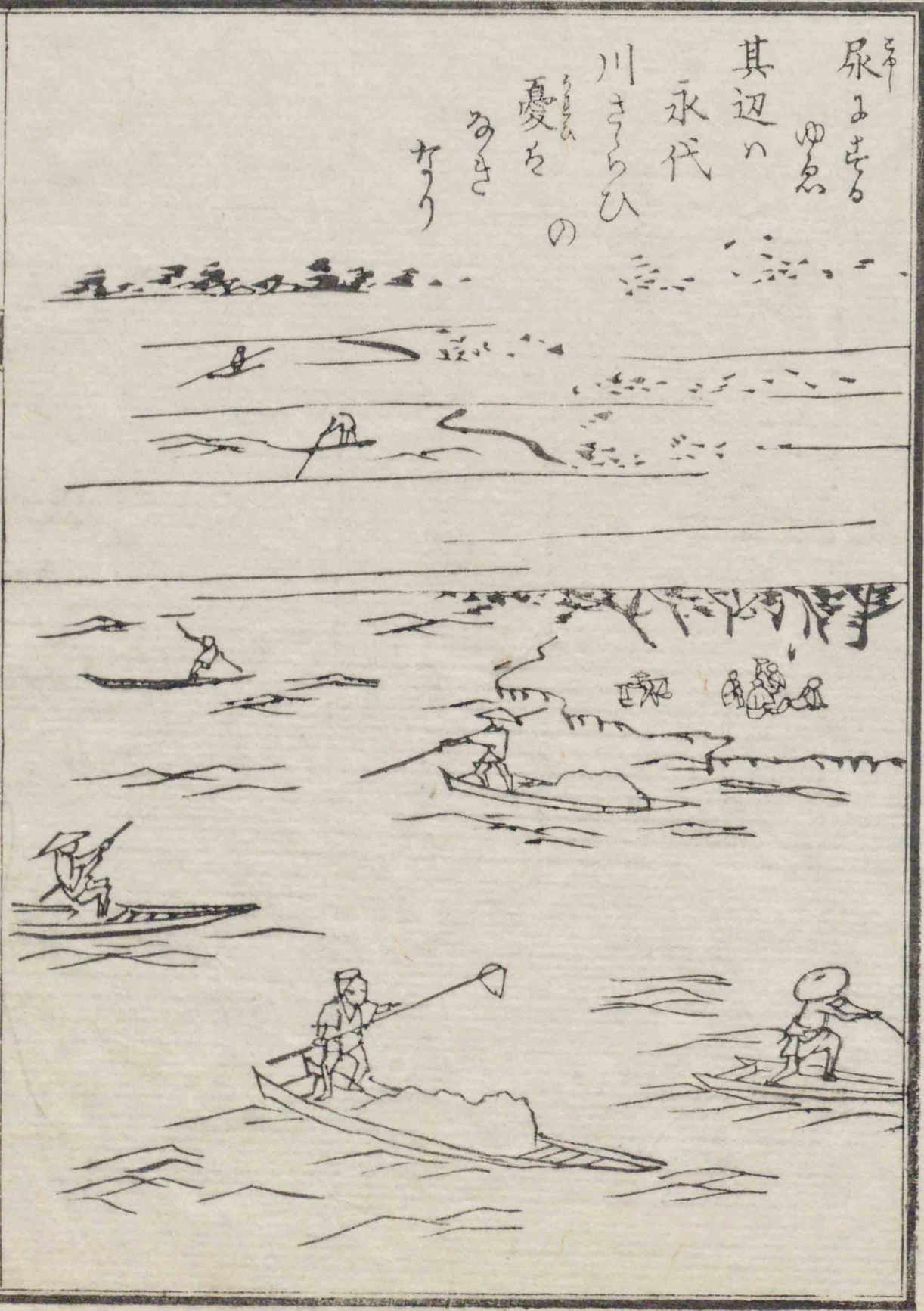
五穀流作の土地
 よも空快晴
 て程かく本の如く
 水おちてのち桑
 の少も水り
 る



海邊の
湊口
又湖辺の
川口水道
おど泥土
うづの
農業の
ひし先
浚
數千反の
桑



尿
其辺
永代
川
憂
あ
か



一諸國川々或ち中嶋とあり又洲と成りたる土地の
動もまじむ五尺一丈二丈中ても洪水して永代流
作乃廢地と成るは来を植むの桑を洪水の憂
あく水渴く後土砂泥土をくさ却く桑の尿り最
上るゆゑあすてふ奥州の大隈川筋信州川中島
濃州岐阜と越前府中川江州姉川丹州由良川
筋但馬豊岡川等の河筋ると恰も數十万石は土
地とみそるるにせしも洪水度おとに水溢る来よ
りり乃作物の成るにけり養蚕乃繁昌の志多

一いあまなり又深山幽谷り桑を遠路交易の
の費多く又甲損鳥獸乃憂なり東山道筋深山乃
國々る養蚕といふむいこもるり少く海邊湊口
土砂あく埋ま或ち水道悪水乃泥土り埋まどり
川さく等如失墜有土地小養蚕繁昌のりすを
なふゆへなすの泥土を来よ能利りのゆゑ農事の
ゆゑゆへにこそ先りと川をさくへ来乃尿りする
あまゆゑ永代川浚の憂るにあり惣して
川筋小添る土地或ち深山海邊小寄る土地

るの荒廢の地多きものゆゑ却而蚕業は勝地と
あり〜事右諸國のよきめ〜をわ〜證據と志
多し

一熟おりのふ天下はひろき土地區〜あ〜早損
或は洪水等の憂〜いあんともす〜らげとの
土地を國〜て多少を記〜も何らだ斯のど
〜は難地〜五穀をほ〜必し勞〜て功を
〜稻を水に程よ〜熟〜る艸〜り棄〜早損洪
水乃土地〜る〜も成木〜る木〜りあ〜る為ふ

農業蚕業其地〜應〜る時を人家自然と〜
繁昌〜る〜り民の産業其地〜應〜せ〜る〜人人家
次第〜減〜ト〜衰微〜る〜と〜あ〜れ不得止事があ
る〜あり〜の〜め〜し〜り〜下民を其地〜應〜むる生業と
得〜る國恩を樂〜む〜と〜万代不易の基業と〜は〜さ〜ま
む土有〜人有人有財〜何〜る天録を記人を生せ〜地
根〜る〜草を生せ〜ど〜肩〜あ〜る〜腹〜何〜る口あ〜れば食
何〜り〜む〜む〜を〜る〜賢君の〜め〜ら〜に逸民〜る〜經濟
の〜や〜〜る〜國郡に〜荒〜亡〜れ廢地〜あ〜〜此由〜るふ

地をあるとて山の山林河澤も雖も錐をさつるやども
 廢地とあるところ一或人のさく我産地を天水
 待の卑損地ゆへ十年よ二年をさくづい五穀不熟
 いふんど生産を得る基業とするは方便あらん
 や答て曰く阿淡の藍讚州備中大和の國るど木
 綿を法くさく生産とて大略卑損乃田地多申
 其地小應ざる産物を撰んぶかり惣トて米穀よ
 かぎらば萬木千草其水脈る應せざるいその能
 をかきさぐるごとく和漢相同ト江南乃橘を江北小

うつて枳とるさく蜜柑を暖國小實と結ぶ
 ゆゑ紀州の名産なまきとる北越の寒國よ植まは
 實とむきさく元より針ある木申名枳も同然ふ
 りとのたさくありやと薩摩の國府を世よたさく
 らにたをよ乃名産なれども其種を他國さくつせ
 ともちやち他の國風よ變ざるあり此類あざく
 數くさくされば地の利をあるんき奇品を産ま
 る物を良農あり市とちかり交易此郡集とな
 さい商賣のさくさるその地り應ざる生産と撰ん

ふ京の水より呉服をそめ池田伊丹より上酒を造
らり伊万里乃土りて陶器を製し越中富山の賣
薬商人是等乃類を水より應じ土より應じ何れも
諸國より應じて生産するごとく全く地理乃妙要
あり

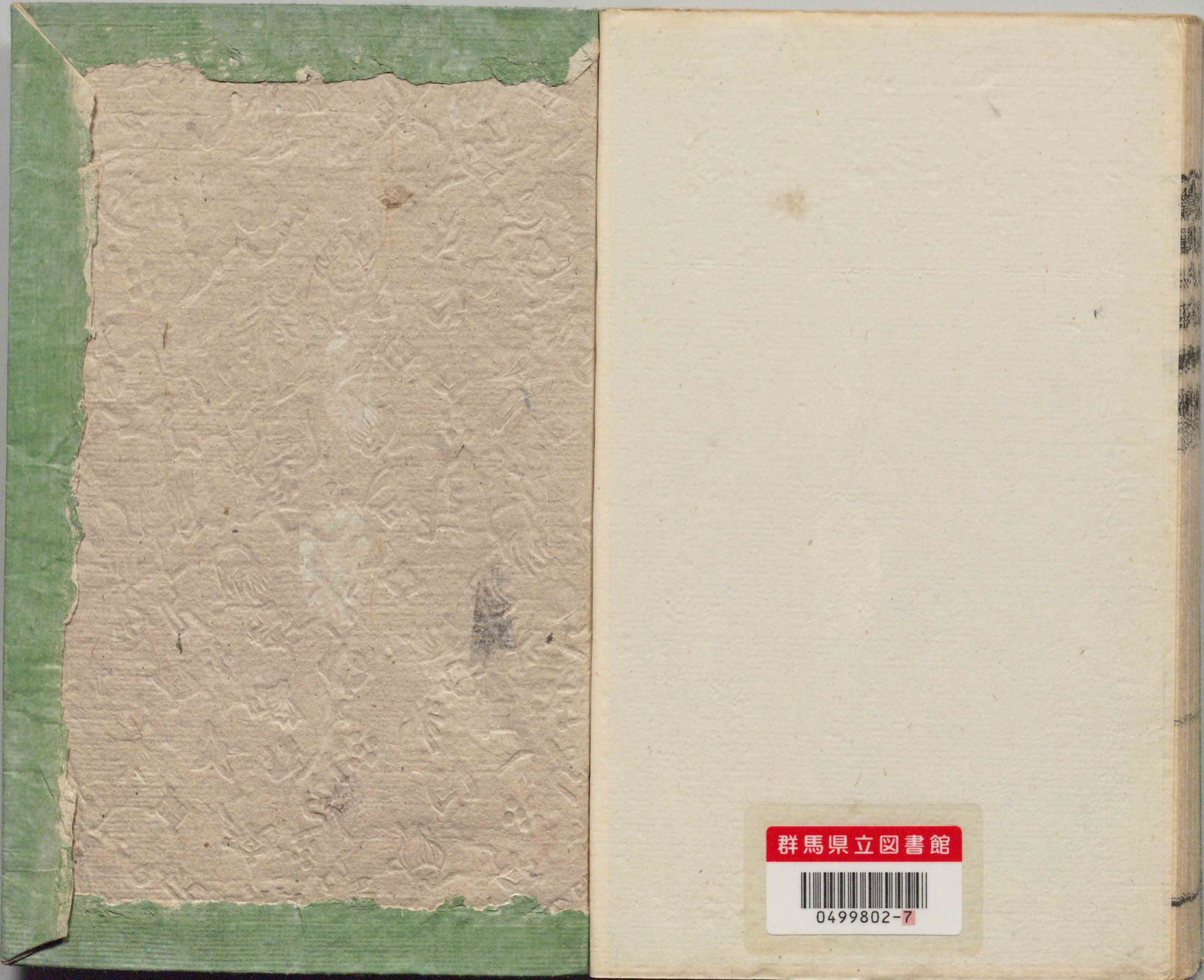
○斯くぞうく書何れもせし土地の是非を考へ
其所々乃生産よ心を委ぬるの農家第一乃所為
あり古より此例をあふふあるをいふ

一因より曰く紙を漉と養蚕といふやりの婦人のいふむ

業よりあるも天下の大業ありあるあり養蚕を營
む郷里あり衣食住の豊饒ありありと十日のする所
ありさて又養蚕を生きそのいふよりいふより
成長より日數漸一月何れりの何れよりいふに
いふより莫太れ勤功成就せり全く婦人乃をいふ
んがよめる業ありあり紙を漉を業とする郡村
の衣食住の衰微なりありとよめる十手れ指
はるありあり紙を漉をいふ極寒れいふあり
いふ其功より可なり不可なり只るいふ貧乏

りざありきまむい貧業と徳業を土地乃厚薄より
らば又人乃智愚よりばたが天然のあつらむ
る所をらんう天下の廣き諸職此類おそかんぐ
あつらむ

勸農 養蠶 糸節 卷之上 終



群馬県立図書館



0499802-7



小野寺文庫